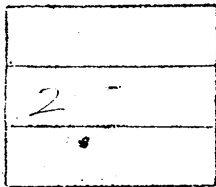


昭和二十一年七月十二日

文部省教科書局長

有光 次郎

勤勞課長
関口隆克殿



関口 9

さきに関催予定のお知らせをした官廳用語
便覽編修協議會については、当省次官名で、貴省
次官あてに貴殿の御出席を御依頼しておきま
したから、そのせつは、ひきつゞき御協力を願
います。第一回は次の要領で開きます。

第一回官廳用語便覽編修協議會

一日時 昭和二十一年七月十七日(水) 午後一時半

一 場所 当省第一食堂(四階、部屋番号四一七号)

一 議題 送りがなのつけ方(一方針要領ニ送りがな用例集

ニ、かな書きにするため、送りがなの問題が生じない語例集)

送りかなのつけ方

はしがり

一、この「送りかなのつけ方」は、國語を書き表はすのに漢字を用ひる場合、單語としてどの部分を漢字で記し、どの部分をかなで示すかについて、現代の口語文通するやうに基準を定めたものである。

二、この「送りかなのつけ方」は、通則と用例との二部から成る。

三、通則は、概ね單語の品詞別に從つて、できるだけ簡單なものとした。

四、用例は、それぞれの語の五十音頻に掲げた。括弧の中には、参考になる例を示したものの、△印をつけたかなは、文章の種類により、その他必要のある場合には、省き得るもの、傍線をつけたものは、かな書きにすることが望ましいものである。

五、用例の中に掲げてない語の書き表はし方は、通則によつて判断するものとする。また用例の中に漢字を用ひてある語について、その漢字をかなに改めて書くことは、もとより妨げない。

送りかなのつけ方

第一 動詞の送りかな

一、動詞は活用語尾を送る。

〔例〕 書く。 起きる。 受ける。 勉強する。

二、活用語尾を送るだけでは、誤讀・難讀のおそれのある動詞は、その前の音節から送る。

〔例〕 表はす。 現はす。

三、活用しない部分に、他の動詞の活用形をよむ動詞は、そのよみかたであるものの語尾から送る。

〔例〕 動かす。 傳はる。 喜ばす。

〔注意〕 右において、誤讀・難讀のおそれのないものは、そのよみかたであるものの語尾を送らない。

〔例〕 浮ぶ。 押へる。 捕へる。 振ふ。 向ふ。 分る。

四、活用しない部分に、他の動詞の活用形に準ずるもの（語尾の音が変化してゐるもの）をよむ動詞は、そのよみかたであるものの語尾から送る。

〔例〕 肥やす。 及ぼす。 減らす。 加はる。 定まる。 始まる。

〔注意〕 右において、誤讀・難讀のおそれのないものは、そのよみかたであるものの語尾を送らない。

〔例〕 荒す 起す 積る 果す

五、活用しない部分に、形容詞の語幹をふくむ動詞は、そのふくまれてゐるもの以外をかな書きとする。語幹が「し」で終るものは、「し」から送る。

〔例〕 近づく 遠のく 重んずる 赤らめる
怪しむ 悲しむ 苦しがる

六、活用しない部分に、副詞をふくむ動詞は、副詞としての送りがないから送る。

〔例〕 確かめる

七、活用しない部分に、名詞をふくむ動詞は、そのふくまれてゐるもの以外の部分をかき書きとする。

〔例〕 指さす 先だつ 先んずる 春めく 黄ばむ

〔注意〕 「象ど」 「司ど」 「貫ぬく」 「伴なふ」 「荷なふ」 「實のる」 「基づく」 「書がくな」
どは、それぞれの漢字を、動詞を表はすものと見て、活用語尾だけを送つても差支へない。

八、動詞と動詞と複合したものは、前にも後にも活用語尾を送る。

〔例〕 思ひ立つ 譲り渡す

〔注意〕 右において、前の動詞が二音節で、接頭語のやうに用ひられてゐるもの及び誤

讀のおそれのないものは、その送りがなを省くことができる。

〔例〕 (イ) 差出す 引受け

(ロ) 成立つ 割當てる

第二 形容詞の送りがな

一、形容詞は活用語尾を送る。

〔例〕 白い 強い 無い

二、語幹が「し」で終る形容詞は「し」から送る。

〔例〕 美しい 悲しい 苦しい

三、活用語尾を送るだけでは、誤讀・難讀のおそれのある形容詞は、その前の音節から送る。

〔例〕 大きい 小さい 暖(温)かい 冷たい 細かい

三、活用しない部分に、動詞の活用形をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるものの語尾から送る。

〔例〕 勇ましい 賢かしい 喜ばしい

〔注意〕 右において、誤讀・難讀のおそれのないものは、そのふくまれてゐるものの語尾を

送らない。

〔例〕 他しい 戀しい

五、活用しない部分に、動詞の活用形に準ずるもの(該尾の音の変化してゐるもの)とふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるものの該尾から送る。

〔例〕 恐ろしい 頼もしい

〔注意〕 右において、誤読、難読のおそめなものは、そのふくまれてゐるものの該尾を送らない。

〔例〕 荒い 悔しい

六、副詞をふくむ形容詞は、副詞と一その送りかなから送る。

〔例〕 甚だしい

七、活用しない部分に、名詞、形容詞の語幹をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるもの以外の部分をかな書きとする。

〔例〕 (イ) 際どい 平たい

(ロ) 古めかしい 軟(柔)らかい

八、動詞と形容詞と複合したものは、その動詞にも形容詞にも、活用該尾を送る。

(三) (五)

〔例〕 聞き苦しい

第三 副詞・接續詞の送りかな

一、副詞、接續詞は最後の一音節を送る。

〔例〕 先づ 若し 殊に 必ず

併し 但し 尤も

〔注意一〕 二音節の副詞、接續詞のうち、次のやうなものには送らない。

〔例〕 又 唯(只)

〔注意二〕 名詞としても副詞としても用いられる次のやうなものには送らない。

〔例〕 今 元 昔 皆

二、「に」を送るだけでは、誤読のおそめのある副詞は、その前の音節から送る。

〔例〕 直ちに 新たに 徒らに

三、「かに」「やかに」「らかに」などのついた副詞は、これらを送る。

〔例〕 静かに 豊かに 賑やかに 滑らかに

〔注意二〕 右の種類の語が、「な」「で」などの該尾をとる場合も、同様に「か」「やか」「らか」の部分から送る。

〔例〕 静か^な 静か^で 賑やか^な 賑やか^で 滑らか^な 滑らか^で

〔注意二〕 「やかに」「らかに」のついた副詞のうち、次のやうなものは、慣用によつて「や」「ら」を省くことができる。

〔例〕 鮮やか^に 穏やか^に 爽やか^に 健やか^に 速やか^に
明らかに 朗らかに 詳らかに

四 副詞・接續詞の終尾に、更に助詞・接尾語が加はつて、別の副詞・接續詞となつてゐるものは、もとの副詞・接續詞の送りかなから送る。

〔例〕 必ずしも 若しも
併しな^がら 若しく^は

五 活用語と関係のある副詞・接續詞は、その活用語の終尾を送る。

〔例〕 餘り 始め 絶えず 盛んに
依つて 従つて 就いては 並びに 及び

〔注意〕 ①印は音便形である。
六 副詞の一部に、名詞・形容詞の終尾をよくむものは、そのよくまれてゐるもの以外の部分をかき書きとする。

〔例〕 (イ) 手づから

(ロ) 浅はかに

第四 名詞の送りかな

一 本来の名詞は、かなを送らない。

〔例〕 紙 時 銅 恩 山 品物 國民 性格

二 活用語から轉じた名詞(複合名詞をよくむ)は、原則として活用語本来の送りかなをつける。

〔例〕 動き 調べ 残り 苦しみ 生き物 物知り 譲り渡し

三 活用語から轉じた名詞(複合名詞をよくむ)のうち、誤讀・難讀のおそれのないものは、その送りかなの一部又は全部を省くことができる。

〔例〕 見合せ(「合せ」の「は」を省いたもの) 打合せ(「打ち」の「ち」と「合せ」の「は」を省いたもの)

組 答 話 日附 勤人 申込 打合會 申合事項

四 形容詞の終尾に、「さ」「み」「け」などがついて、名詞となつてゐるものは、これらのかなを送る。終尾が「し」で終つたものは、「し」から送る。

〔例〕 暑さ 親しむ 甘み 寒け 眠け 惜しげ
其数を数へる後尾の「つ」は送る。

[例]

一つ。

二つ。

三つ。

五つ。

幾つ。

備考

以上に掲げた以外の品詞、代名詞・連体詞・感動詞並びに助動詞・助詞は漢字を用ひないのを原則とする。

②

恨めしい(恨む)
 怨めしい(怨む)
 賣惜しみ
 賣出し
 選ぶ
 於いて
 置物
 奥まる
 起す
 巖かに
 起る(起まる)
 押へる(押す)
 恐らく(恐れる)
 恐ろしい
 穢やかた

貸家
 微かに
 形どる(象どる)
 固まる(固める)
 語らふ(語る)
 勝ち負け
 且つ
 悲しき(悲しい)
 悲しみ
 悲しむ
 必ず
 必ずしも
 兼ねて(豫て)
 變る(變へる)
 代る(代へる)

落着き
 落し物
 落す(落ちる)
 訪れる
 自ら(自ら)
 大いに
 大きい
 概ね
 大喜び
 大笑い
 思ひ立つ
 思ひ出
 徐ろに
 重んずる(重い)
 及び(及び)

買占め
 買出し
 買溜め
 却つて
 省みる(顧みる)
 肯ずる
 通帳(通帳)
 枯らす(枯れる)
 假りに
 軽んずる(軽い)
 鑑みる
 番ばしい
 聞える(聞く)
 來たる(来る)
 來る(来る)

及ぼす(及び)
 疎かに
 番ばしい
 屈まる(屈める)
 揮かしい(揮く)
 掛係
 掛る(掛ける)
 懸る(懸ける)
 書き方
 書附
 書き物(書物)
 掛け金
 掛け物
 重なる(重ねる)
 貸方

際どい
 極まる(極める)
 賣ばむ
 極めて
 決まる(決める)
 極まる(極める)
 清らかに(清い)
 切替
 釘付け
 柔しい(精しい)
 食ひじる(食ふ)
 加ほる(加へる)
 組(組む)
 組合
 組合

組立(組立式)
 悔しい(悔いる)
 悔み
 悔む
 暮す(暮れる)
 暮し
 繰上(繰上げる)
 繰入(繰入れる)
 繰返(繰返す)
 繰越(繰越す)
 繰下(繰下げる)
 繰延(繰延ぶ)
 苦しがる(苦しい)
 苦しむ
 苦しめる

下がる(下げる)
 盛んに
 先づ
 先んずる
 差押
 差支
 差支(差支へる)
 誘ふ(誘ふ)
 定まる(定める)
 定めて
 授かる(授ける)
 冷ます(冷める)
 覺ます(覺める)
 醒ます(醒める)
 騒がしい(騒ぐ)
 寒け(寒い)

苦しむ
 狂はせる(狂)
 狂ふ
 決して
 焦がす(焦げる)
 焦がれる
 心當り
 心掛り
 試みる
 心持(名詞 心持ち 副詞)
 快い
 答
 悉く
 故らに
 異なる

寒け(寒い)
 爽やかに
 仕合せ
 仕合せ
 併し
 併しながら
 従つて
 親しみ(親しい)
 親しみ
 親しむ
 滴らす(滴る)
 慕はしい(慕ふ)
 静かに
 静まる(静める)
 在拂(在拂い)

殊に
 好ましい(好む)
 好み
 好ましい(好む)
 好む
 戀しい(戀む)
 希ふ
 細かい(細い)
 細かに
 細やかに(濃やかに)
 懲らす(懲りる)
 轉(名詞 副詞)
 轉(名詞 副詞)
 幸(名詞 副詞)
 逆らふ
 盛り

支拂(支拂制限)
 締(名詞 副詞)
 締(名詞 副詞)
 閉(名詞 副詞)
 調へ(調)
 直ぐ
 直ぐに
 少く
 少くない
 救ふ
 少し
 過(名詞 副詞)
 健やかに
 既に
 則ち
 即ち

總べて
 滑らす(滑る)
 済ます(済む)
 速やかに
 狭まる(狭める)
 害小損ふ賊ふ
 備はる(備へる)
 染まる(染める)
 及らす(及る)外らす
 絶えず
 互に
 高まる(高める)
 高らかに
 巧みに
 確かに
 司どる、掌る
 遣す
 次々に
 次の
 盡す(盡きる)
 償ふ
 拙い
 直はる(傳ふ)(傳へる)
 勤人 勤先
 教系り
 教系かる(教系く)
 終に
 費す(費える)
 具に
 詳らかに、審らかに

確かめる
 助かる(助ける)
 唯、只
 但し
 但書
 直ちに
 疊まる
 漂はす(漂ふ)
 勿心ち
 建物
 例へば
 楽しさ(楽しい)
 楽しみ
 楽しいむ
 頼もしい(頼む)

話まる(話める)
 冷たい
 積る(積む)
 連なる(連ぬる)
 貫ぬく
 手當
 手づから
 手續(手續問題)
 手取
 出廻り
 手持
 照らす

平かに
 平げる
 平に(平に)
 賜はる(賜ふ)
 溜まる(溜める)
 絶やす(絶える)
 便り
 重らす(垂れさる)
 縮まる(縮む)
 (縮める)
 縮らす(縮れる)
 小さい
 散らす(散る)
 次いで(次ぐ)
 就いては(就く)

溶かす (溶く) (溶ける)
 光らす (光る)
 時めく
 戸締り
 屈
 止まる (止める)
 留まる (留める)
 停まる (停める)
 隣
 飛ばす (飛ぶ)
 問合せ
 問屋
 遠かかる (遠い)
 遠ざける
 遠のく

富ます (富む)
 止まる (止める)
 留まる (留める)
 停まる (停める)
 伴なふ
 捕へる (捕る)
 取扱 (事務取扱)
 取扱ふ
 取消
 取締 (取締役)
 取調
 取次
 取計
 取拂
 取引

流し (流れ)
 長らへる (長い)
 流れ
 投賣り
 歎かほしい (歎く)
 和やかに
 懐かしい (懐く)
 夏休み
 尚ほ
 滑らかに
 馴らす (馴れる)
 均す
 習はし
 並びに
 成り立つ

逃がす (逃げる)
 (逃がす)
 賑はふ
 賑やかに
 荷なふ (擔ふ)
 俄かに
 顔づく
 抜け出す
 濡らす (濡れる)
 願はしい (願ふ)
 願ふ (賜願願)
 懇に
 妬ましい (妬む)
 眠け (眠い)
 逃がす (逃がす)

残り
 望ましい (望む)
 則ち
 延ばす (延びる)
 乗合
 乗り降り
 乗越
 化かす
 計らふ (計る)
 運い
 挟まる
 始まり
 始まる (始める)
 初まる (初める)

始め 初め
 果して
 果す
 働かす
 恥づかしい
 外れる (外れる)
 話 (話す)
 甚だ
 甚だしい
 忙やかに
 生やす (生える)
 晴らす (晴れる)
 拂込
 遙かに
 春めく

晴れやかに
日當り
引上げ
引受人
引受ける
引換 (引換券)
引込 (引込線)
引下げ
引出し
引継 (事務引継)
引取 (引取人)
引分け
私かに 密かに
陰かに
日附

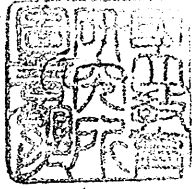
引越
引込 (引込思案)
冷かす
冷やす (冷える) (冷ます)
冷やかに
平たい
廣がる (廣い)
(廣げる)
廣まる (廣める)
更かす (更ける)
深まる (深める)
塞がる (塞まる)
再び
二つ

踏切
殖やす (殖える)
振替
振ふ (振る) 震ふ
古めかしい (古い)
隔たる (隔てる)
減らす (減る) (減す)
朗らかに
誇り
欲する
殆ど
略
掘出物
七五寸 (とびる)
減ぼす (減びる)
ら長

申し上げる
申合せ (申合事柄)
申入れ
申込
申し込む
賄ふ
曲る (曲げる)
紛らす (紛れる)
誠に
雑じる (雑る)
(雑せる)
交わる (交る) (交る)
又
待合せ
待合 (待合室)

先づ
全うする (白えうする)
全く
免れる
賄ふ
迷はす (迷ふ)
見合せ
見合
見送り
短い
見出し
えんたす (えんつ) (えんちる)
満たす (満つ) (満ちる)
自ら (自らか)
三つ

見積り
見通し
實のる
見晴し
見知ら
向ふ (向く)
空する
結ひ
穴工
群がる
珍しい
若し
若しくは
齋す
待合せ



以つて
最も 尤も

専ら
基づく

物知り
物好き

物笑しい
燃やす (燃す) (燃える)

安まる (安心)
雇い主

軟らかい (軟い)
柔らかい (柔い)

軟らかに 柔らかに
矢張り
稍

佗しい (佗びる)

笑ひ聲
笑ひ話

割當
割當てる

畫かく (描く)
幼い

治まる (治める)
収まる (収める)

修まる (修める)
惜しげ (惜しい)

惜しむ
教はる (教へる)

終る (終へる)
折返線

行つて過る

行方
豊かに

譲り渡し (譲渡)
指さす

緩やかに
故に

横たはる
横たへる

寄せ書
寄せ手

装ふ
因つて 依つて

呼び出し (呼出電話)
読み書き (讀書)

折り方

折り目
折れ目

嘉する

喜ばす (喜ぶ)
喜しい

世渡り

弱まる (弱い) (弱める)
沸かす (沸く)

分つ (分ける)
分れる 別れる

分け目
渡し (渡り)

渡り鳥
僅か

煩はしい (煩ふ)
煩はす